

アイランドシティ照葉のまちづくり

福岡市東区香椎照葉



「照葉のまちづくり」は、福岡市の博多湾東部海域に誕生した約401haの「アイランドシティ」における、最初の住宅開発であり、樹齢250年の楠を配した「照葉の森公園」をはじめとした豊かな緑と、自然石の石積みと生垣で統一された外構を持つ住宅地として計画した。

海をイメージした緩やかなカーブを描く歩行者空間や集合住宅のバルコニー、石畳みの広場を囲むように配置された戸建住宅と集合住宅は、緑豊かな環境に溶け込むように色彩や形態に工夫を凝らし、この緑の環境を美しく保つため、統一感のある街並みづくりを行っている。

集合住宅においては海へとつづく眺望と海からの景観に配慮したひな

壇状の住棟配置とし、低・中・高層が混合した住棟配置を実現している。また、市と事業者が協同した開発の成果として計画地内の公園との境界にはフェンス等の囲障を設けず、外構植栽との一体化をはかることで、あたかも一つの環境であるように設え、地区全体の緑被率を高める計画としている。

さらに、この緑の環境を美しく保つためアイランドシティデザインガイドラインに基づき整備した戸建住宅地・集合住宅地共にそれぞれ、建築協定、緑地協定を定めており、公共による維持管理だけでなく、住民全体の組織である「照葉のまちづくり協会(TCA)」を設立し、この街並みや住環境を維持・保全する取り組みをすすめている。